

ひとが輝くまち

広報

# ゆざ



YUZA Town Public Relations

令和2年 No.708

# 2

## 今月の話題

「のせでBOX」を活用しよう！ .....

今年の姉妹都市ソルノク市派遣団が決定しました ... 4P

令和2年 成人式 .....

ほか



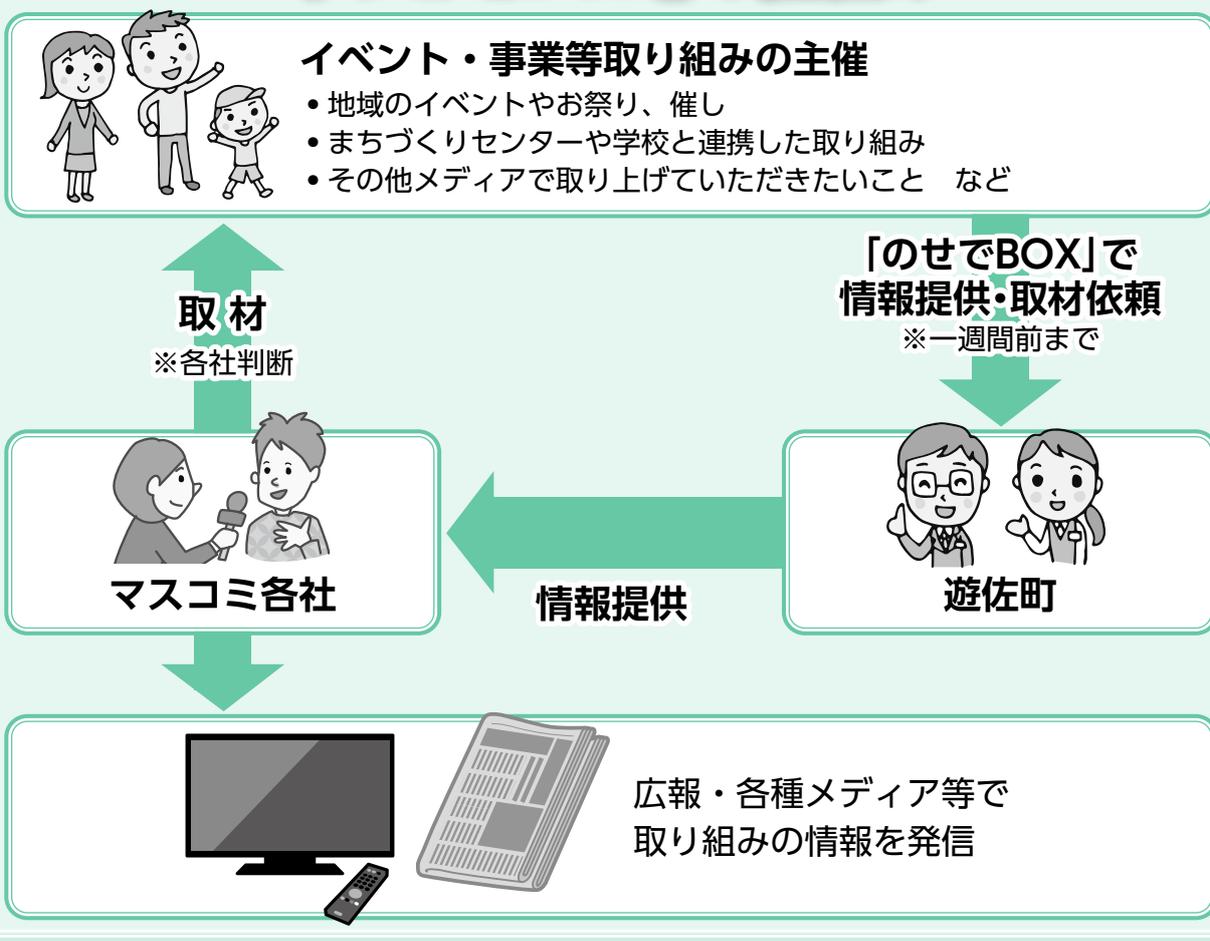
まちの魅力をもっと発信！

# 「のせでBOX」を活用しよう！

## 「のせでBOX」とは…？

情報発信力が課題となる昨今、町で行われるイベント・催し・地域の活動についても、より効果的に発信する取り組みが必要となります。のせでBOXは、町内で行われるイベント・催し・地域の活動・町の話題などの情報を県内のマスコミ各社へ提供する仕組みです。

## 「のせでBOX」の仕組み



## 「のせでBOX」の利用方法

① 「のせでBOX」の依頼は、左のページの文書様式で受け付けています。文書様式は町のHPでダウンロードできます。

② 文書には情報提供者、問い合わせ先、タイトル（取り組み名）、開催日時、開催場所、内容を最低限明記してください。また、「取り組みを取材に来てほしいのか」「取り組みの開催を告知してほしいのか」を明確にするために、下欄にチェックをしてください。

※情報を正確に伝えるため、文書はできるだけ手書きは避け、ワープロ打ちで記載してください。

※提供される情報は多ければ多いほど取材がしやすくなります。A4判サイズのチラシ等があれば、一緒に送ることができます。

③ 企画課企画係まで文書を提出してください。文書は、原則FAXでマスコミ各社へそのまま送信されます。※マスコミ各社への情報提供は、開催日の一週間前までに行ってください。早め早めに情報を提供した方が、マスコミ各社としても対応がしやすく、取材されやすくなります。

※開催日の一週間前の時点では取り組みの内容が一部決まっていない、という場合も、その旨を記載の上で情報を提供することができます。

# － 「のせでBOX」の記載例 －

※記載のイベントは架空のものです。

Press release !

## 遊佐町のせでBOX



情報提供は遅くとも開催日の一週間前までに！

令和〇年〇月〇〇日

報道機関 各位

送信元 遊佐町役場 企画課 企画係

TEL 0234-72-4523

FAX 0234-72-3315

E-mail koho@town.yuza.lg.jp

情報提供者・連絡先は必ず明記してください。  
不明な点や事前取材などの問い合わせ先となります。

情報提供者	遊佐太郎
連絡先	☎〇〇〇〇 - 〇〇 - 〇〇〇〇 FAX〇〇〇〇 - 〇〇 - 〇〇〇〇

タイトル (情報名)	遊佐町のせでフェスタ
開催日時	令和〇年〇〇月〇〇日 午前〇〇時～午後〇〇時
開催場所	遊佐町役場 2階 議事所

### 【情報の内容】

町内の小学校6年生の総合学習の一環として、広報の作成体験学習を行います。

児童たちが遊佐町の情報を発信する側の視点に立ち、自分たちで情報の発信に取り組むことで、今の遊佐町ではどんな取り組みが行われているのか、どんな情報が発信されているのかに触れてもらい、この先の未来へどのような取り組みをしていくべきなのかを考えます。

児童が作成した広報は町内各施設へ展示されます。

※取材の際は、事前に上記連絡先にご一報いただくと幸いです。

ワープロ打ちで記載してください。

取り組みの情報について、できるだけ詳細に、わかりやすく記載してください。

内容については添付のチラシもご参照ください

チラシ等がある場合は、一緒に FAX で送ることができます。

「告知してほしいのか」「取材に来てほしいのか」を明確に！

報道各社への お願い	事前に 告知してほしい	イベント当日に 取材に来てほしい	その他
---------------	----------------	---------------------	-----

## 情報を提供する際の注意点

「のせでBOX」は、新聞やテレビ等で取り上げられることを確約するものではありません。取材されるかどうか、メディアで取り上げられるかどうかは、マスコミ各社の判断となります。

マスコミ各社より取材に来てもらいやすくするために、取り組みの内容は詳細に・わかりやすく・早め早めの情報提供を心がけましょう。

「のせでBOX」の様式については、下記問い合わせ先および町HPまでお求めください。

● 問 / 企画課企画係 ☎ 72-4523

# 今年の姉妹都市ソルノク市派遣団が決定しました



積極的に挑戦し、お互いの友好と親善を育みます

## 令和元年度 派遣団員名簿

区分	番号	氏名	性別	所属
団長	1	畠中 良一	男	地域生活課
副団長	2	川俣 聖子	女	会社員
中学生団員	3	池田 咲菜	女	遊佐中2年
	4	池田 結映	女	遊佐中2年
	5	今野優依奈	女	遊佐中2年
	6	後藤 悠月	女	遊佐中2年
	7	佐藤 里桜	女	遊佐中2年
	8	菅原 亜子	女	遊佐中2年
	9	高橋 佑奈	女	遊佐中2年
	10	村上明日菜	女	遊佐中2年
高校生団員	11	池田 緩菜	女	N高1年
	12	渋谷ののか	女	酒田西高1年
	13	鈴木香乃子	女	遊佐高2年
事務局	14	石垣 潤子	女	健康福祉課

## ONE TEAMで自分らしく!

ハンガリー・ソルノク市派遣事業は今回で26回目となります。今年度の団員は、中学生8名、高校生3名を含む14名です。12月19日(木)に行われた派遣団員任命式では、「ホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとりたい」「ハンガリーの文化にふれてきたい」「自分の持っている力を試したい」「遊佐町のすばらしさをPRしたい」などの抱負を元気に語ってくれました。

1月13日(月・祝)からは、3月

の出発に向けた研修会が始まりました。研修会では、遊佐町国際交流協会会員が講師となり、ハンガリー語や歴史・文化を学ぶとともに、日本文化や遊佐町について、ハンガリーの皆さんに伝えるためのスキルを身につけます。

派遣期間は3月18日(水)～25日(水)の8日間です。団員は期間中ソルノク市役所をはじめ、幼稚園、芸術小学校などを訪問するほか、3泊4日のホームステイを体験する予定です。

● 問／企画課企画係 ☎ 72-4523

# 「日本海と大地がつくる水と命の循環」

《第62回》  
雪と氷の

ジオサイトを歩こう



鳥海山・飛鳥ジオパーク  
推進協議会  
主任研究員  
岸本 誠司 氏

冬も深まり、山も里もすっかり雪化粧となりました。東北地方には冬になると大陸から非常に冷たく乾いた北西の風が吹くようになります。日本海には暖かい対馬暖流が流れていますが、この冷たい風が暖かい日本海の上を渡ってくるうちに海から水蒸気を受け取り、鳥海山や奥羽山脈にぶつかって冷やされたたくさんの雪を降らせます。

このように多くの雪が降るには、①中緯度であり、②西に暖かい水面があり、③東に山地がある、という条件が必要です。世界的な豪雪地帯として知られる日本、北ヨーロッパ、トルコ北東部、アメリカ合衆国の五大湖南岸などはすべてこの条件を満たしていることが

わかります。

近年、スノーシューを履いてジオサイトを訪問するスノートレッキングの人气が高まっています。十二滝や玉簾の滝（ともに酒田市）、二ノ滝（遊佐町）などでは、観光協会や市民団体によるスノートレッキングが企画されています。



二ノ滝の氷柱は自然の作りだす  
驚異の造形美です

滝は、岩石と水の長い年月にわたる相互作用でさまざまな姿形を見せています。厳冬の滝は白銀のなかで白糸を垂らし、ときに凍りつき氷柱をつくったりします。夏とはまったく別の姿です。熟練したガイドの案内で、野生動物の足跡や落葉樹の冬芽を観察する楽しみもあります。この冬は雪と水のジオサイトを歩いてみてはいかがでしょうか。

# 古代の息づかいを現代へ

〜遊佐町の文化財紹介〜

遊佐町の文化財 その62

## 大井の地蔵ふり

稲川地区の大井では、「地蔵ふり」という珍しい行事が伝わっています。正月1月2日の夜、大井神社に子どもたちが集まり、椿の木でつくった30cmほどのお地蔵さまにお神酒を灌いだ後、手綱をかけ、両方で手綱をとって、縄とびのように「じぞう、じぞう」と唱えながら振り回します。お地蔵さまは、地面に叩きつけられ、雪は吹き飛び、地面は掘れていきます。その地面の掘れ具合を見てその年の稲作の豊凶を占う行事だともいいます（菅原傳作『遊佐新風土記』）。

尾花沢市でも、「地蔵転がし」という類似の行事が伝承されています。1月中旬、「子どもたちがお地蔵さんを引きずりまわしながら各家庭を練り歩き、福を呼ぶ」のだそうです（尾花沢市ホームページ）。

大井でも、明治期までは、15日ごろの小正月行事で、1軒1軒村

中をまわり、屋敷の庭でやったものといいますが、現在は2日の地蔵ふり、3日の御頭連中の獅子舞と一体の行事となっています。

一見乱暴に見える行事ですが、お地蔵さまも子どもたちと遊ぶことを喜び、子どもたちが元気に育つことを祈る神事だと地元の人たちは信じています。春の農耕に先立ち、生命力に溢れた子どもたちが冬眠している大地を目覚めさせる行事ともいえるのではないのでしょうか。



写真提供：須藤 敏彦 氏

● 関 / 教育課文化係 ☎ 72-5892

## 地元の文化を体験しよう

### 吹浦小学生がアマハゲ体験

2018年にユネスコ無形文化遺産に登録された遊佐の小正月行事（アマハゲ）が今年も行われました。アマハゲ行事は女鹿・滝ノ浦・鳥崎の集落に伝わる、面とケンダン（藁）を身に付けた来訪神が家々を訪れ、怠け心を諷め、幸福を与える民俗行事です。



アマハゲに変身する若者たち（滝ノ浦）

今年も鳥崎アマハゲ保存会と酒屋旅館から協力をいただき、吹浦小学校3年生の希望者がアマハゲ行事の体験学習を行いました。太鼓の音が近づいてきたかと思うと、突然アマハゲが部屋へと突入。勢いのまま

に児童のみならず保護者、先生もろとも抱きかかえられました。その後は保護者からアマハゲへお酒を振る舞うなどてもてなしが行われ、行事後には縁起物であるケンダンから落ちた藁屑を拾い集めるなど、アマハゲ行事を堪能しました。



アマハゲに抱きかかえられる児童

この取り組みは、地域の自然・文化・芸能などを学ぶ総合学習の一環。アマハゲ行事を体験したことのない児童に、地域の伝統文化について実際に触れ、学んでもらう良い機会となりました。

## 瑞宝単光章おめでとうございます …土門清さん（田地下）

国勢調査を初めとする各種統計調査に尽力し、昭和45年から現在まで49年間にわたり統計調査員として活躍した功労と功績が評価されました。土門さんは昭和45年に国勢調査員に、昭和50年に農業センサス調査員に、昭和58年に住宅・統計調査員に、平成16年に商業統計調査員に任命され、永年にわたり50回以上も各種調査に貢献してきました。



各種調査員として多大な貢献が評価されました

## アナコンダの大暴れを期待して 伊藤海斗選手激励会

読売ジャイアンツより6位でドラフト指名を受けた伊藤海斗選手の激励会が、令和元年12月28日(土)に生涯学習センターで行われました。伊藤選手は遊佐町史上初のプロ野球選手として、1月からは既に生活拠点を東京へと移動。2月からはいよいよ巨人軍の一員として、来シーズンの開幕を占うキャンプを迎えます。今後の活躍が期待されます。



野球少年たちの想いを胸に、キャンプを迎えます。

# フォト トピックス

Photo  
Topics



## 柚子湯で健やかな冬を



令和元年12月22日(日)、あぼん西浜の露天風呂に柚子が浮かべられました。冬至に柚子湯に入ると風邪をひかなくなると言われています。厳しい冬も、柚子湯で温まって健康に乗り越えましょう。

## クリスマスに音色のプレゼント



令和元年12月22日(日)、生涯学習センターで第10回Xmasコンサート2019が開催されました。ユザブルームジュニアの皆さんやゲスト、講師による演奏が披露され、会場を美しい音色で包みました。

## 新しい年を笑顔で!



1月4日(土)、5日(日)、蕨岡、高瀬、西遊佐のまちづくりセンターで新春寄席が開催されました。寄席では古今亭菊寿師匠、瀧川鯉橋師匠の落語が披露。切れ味の鋭い語りに、会場に訪れた方は笑顔で新年を迎えられました。



さまざまな用途に用いられる椿油を作りました

菅原源吉さん(樽川)が、町内の椿から椿油を作りました。菅原さんは平成30年に椿油の製作に着手。試行錯誤を繰り返して椿油を自作しました。令和元年には宮城県大船渡市にある製油業者へ椿の種19kgを送り、約5リットルの椿油を精油してもらいました。今後も椿油作りに取り組むという菅原さん。今後の活躍が期待されます。

椿油の製作のため、コンマの複動式脱穀機を探しています。心当たりのある方は菅原(☎72-4704)までご一報お願いします。

菅原源吉さん(樽川)が遊佐産の椿油を作りました



プレゼンは図や実演を交え、伝わりやすいように試行錯誤。

12月15日(日)、生涯学習センターで第4回数学フェスタin遊佐が開催されました。数学フェスタは、中学生が自分で決めた数学のテーマについて、研究したことの発表・意見交換を行うイベント。この日は計8組22名の生徒たちが「面積が一定である長方形の周の長さ」や「ルーローの三角形について」など、研究した成果を発表しました。会場ではプレゼンブースの他にも、数学カレンダーや数学プチミュージアムなどが設営され、数学尽くしのイベントとなりました。

このイベントには法則がある!  
数学フェスタin遊佐

まちかど

ホット  
ライオン

読者の広場

今日は「たらふく」日和  
第25回ゆぎ町鱈ふくまつり

1月19日(日)、マルチドームふれんどりで第25回ゆぎ町鱈ふくまつりが開催されました。この日は暖冬の影響か稀にみる晴天に恵まれ、早い時間から来場者が行列を作る大盛況となりました。満員となった会場では、C-Dreamsや鳥海太鼓の演奏、酒田のマルチシニングア佐藤良子さんの歌が披露されました。おたのしみ抽選会ではゆぎ親善大使の早瀬あやさんが賞品を手渡しするサプライズも。温かい鱈ふく汁と一緒に、遊佐を味わう一日となりました。



連携して空き家の活用に取り組んでいきます

空き家の活用による  
『地域づくり連携協定』を締結

令和元年12月17日(火)、山形県遊佐町、東北芸術工科大学、山形県住まい・まちづくり公社の4者で、「地域づくり連携協定」を締結しました。この協定は、増加する空き家を活用して移住や若者・子育て世代の定住を促進し地域の活性化を図ることや、老朽空き家



あったかい鱈ふく汁に夢中!

の解体跡地を利用した居住環境の改善などにより、良好な地域づくりをめざすものです。既に連携事業の1つとして、山形県住まい・まちづくり公社の空き家買取り再販事業に取り組む、町内の十日町地区にリノベーション住宅の分譲を行っております。今後も空き家もたらすさまざまな地域課題に連携して取り組んでいきます。

新春企業経営者賀詞交歓会・  
地域経済セミナー

1月10日(金)、パレス舞鶴で新春企業経営者賀詞交歓会・地域経済セミナーが開かれました。賀詞交歓会では、遊佐町商工会本間知広会長が「商工会の体質を改善しながら、さまざまな補助制度を活用し町の産業活性化に成果を上げて行きたい」と挨拶。地域経済セミナーでは、株式会社オリーブ代表取締役の橋本道春さん(升川)より『新規事業への挑戦』の講演をいただきました。橋本さんはさまざまな職業経験や挑戦の中で「ワクワクする方へ進むと何かが待っている」ことを学び、映像会社を起業。時には失敗しながらも、その経験を糧にして事業を進めて行くことをお話されました。また、

今後の取り組みとして、地方の企業が儲かるブランディングなど、新年のさらなる産業活性化へ向けた展望を語られました。



町のふるさとCMも手掛けている、株式会社オリーブ代表の橋本道春さんよりご講演いただきました。

『総合的な探究の時間』へ向けて  
遊佐高等学校で地域版SDGs講座

12月23日(月)、遊佐高等学校で『総合的な探究の時間』として、東北芸術工科大学4年の佐藤朋子氏を招き講座が行われました。SDGsとは、持続可能な開発目標の略称で、2015年に国連サミットで採択された国際目標です。SDGsは国際的な目標となつていますが、今回の講座ではこのSDGsを地域に落とし込んで学習しました。この日は、佐藤氏が製作に取り組んでいる山形版SDGsカードゲームを使い、個人の活動が地域にどのような影響



菅原 なつみさん(六日町)

SUGAWARA Natsumi  
平成11年生まれ

## 礼儀・挨拶・笑顔

### ■一言／

私は今年で二十歳になりましたが、成人式にも実行委員として関わらせていただきました。今年は実行委員で"思い出の映像"を作ることを発案。みんなでアルバムを持ち寄り、素敵なスライドショーを作ることができたと思います。各々仕事のある中での打ち合わせや作業などは大変でしたが、成人式当日は出席率も高く無事成功に終わり良かったです。

昨年度から地元のものづくりの会社に勤めています。大変なことも多いですが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」というように、わからないことはどんどん聞いて自分の糧にするように心がけています。キャッチの「礼儀・挨拶・笑顔」は、高校のソフト部の顧問の先生から教わり、今も大切にしている言葉です。職場では最年少なので、若さを武器に笑顔を絶やさないう日々過ごしています。

### ■町への要望／

今年はオリンピックの年で、町にも聖火リレーが通るということでしたので、海外の方にも遊佐町を見てもらえる・楽しんでもらえるような取り組みをしてほしいです。

を与えていくかを体験しました。  
遊佐高等学校では、来年度より新カリキュラムとして生徒個人が課題を見つけ、探究活動をする『総合的な探究の時間』が始まります。今回の地域版SDGsでの体験は、総合的な探究の時間に向け、自分と関わりのある地域の課題を考



カードゲームでSDGsを体験

えるき  
っかけ  
となっ  
たこと  
でしょ  
う。

「古い道具と昔のくらし」  
町内の各小学3年生が遊佐町歴史民俗学習館で実際に昔の道具に触れたり、体験したりする「古い道具と昔のくらし」体験学習が行われました。15日には高瀬小学校と吹浦小学校の3年生と一緒に体験学習に参加。歴史民俗学習館の畠中先生、石垣先生、土田先生に案内され、展示されている昔の農耕器具や生活道具、昔の教科書やお店にあったものなどを見学しました。体験学習では、「千歯こき」や「足踏み式脱穀機」を使った稲の脱穀体験や、石臼を使ったきな粉作

## 古い道具と昔のくらし 町内各小学生が昔のくらし体験学習

1月15日(水)から23日(木)にかけて、

りなどに取り組みました。  
この取り組みは社会科の学習の一環。過去から現在の暮らしを学び、そして未来がどうなっていくのか、子どもたちから考えてもらう授業となりました。



唐箕を使った初の選別を体験



「田舎暮らしの本」ぜひご覧ください

## 「住みたい田舎ベストランキング」東北エリア第7位

## 集落支援員だより

遊佐町は、宝島社『田舎暮らしの本』2020年2月号、「2020年版住みたい田舎ベストランキング」小さなまち（人口10万人未満）部門では539市町村のうち38位、市を除くと5番目にランクインしました。移住者支援や豊かな自然が評価されたようです。今後益々、移住者の住居の充実が重要となってきますが、「たまに帰省する」「荷物がある」等の理由で、賃貸できる空き家が少ないのが現状です。家は生き物とも言われ、放っておけば傷みも進みます。空き家をどうしたらいいか悩んでいる方は、ぜひご相談ください。

集落支援員 渋谷一行、佐藤正子

☎72-3981 FAX28-8455（集落支援員事務所：Aコープゆざ店2階）